授業デザイン

教科・科目：地歴公民・現代社会　　令和２年１１月１３日（金）

実施学級：１年６組
実施場所：１年６組教室
単元名　：核兵器の廃絶と国際平和　　１／１時

１　本時の指導目標	・核兵器の拡散と、軍縮への取組の歴史が理解でき、説明できる。 ・「安全保障のジレンマ」を理解し、軍縮に必要なことについて思考できる。
２　本時の手立て	・核兵器拡散と軍縮の取組の歴史を説明する。 ・「囚人のジレンマ」を用いて「安全保障のジレンマ」について思考させる。
３「深い学び」に導くための問い	問い　「軍縮には何が必要か」 本時の目的は、「安全保障のジレンマ」について理解し、そのジレンマを解消するために必要な条件について考えることを通して、なぜ軍縮がなかなか進まないのか、軍縮を進めるためには何が必要なのかを考えることである。思考のモデルとして、ゲーム理論の最も有名なモデルである「囚人のジレンマ」を用いる。まず、「囚人のジレンマ」について考えさせ、「合成の誤謬」について理解させる。多くの人が核の拡散に反対し、軍縮を唱えながら、現実的に軍縮が行われにくい理由について思考させる。次に、この「ジレンマ」を解消させる方法について考えさせる。キーワードとして「信頼関係の構築」がでてくるだろう。またそれを構築する上で必要な「情報公開」について考察させる。 この授業は、理論的なモデルを理解させ、そのモデルを用いて現実社会を理解させ、解決策を考えさせるという構造である。 映像は、「展開」の「囚人のジレンマ」に関する部分である。
	問いのレベル **□Ｉレベル　Ideas　知識、技能の習得** （基本的な事項、基礎的な事実関係、定義、基本的な概念等を確認するような問い） **□Ｃレベル　Connections　既知の知識・概念や他領域とのつながり** （教科の既習内容、他教科の内容、実生活の内容などと、学んだことの関係やつながりを理解させる、あるいはそれらとつなげて説明させるような問い） **■Ｅレベル　Extensions　応用、活用** （学んだことを全く新しい状況に応用させるような問い。答えが一つに定まらない問い。リアリティがあり、他者性を前提とした問い）

４　学習の展開			
学習活動		指導上の留意点	評価方法
導入	●本時の目標を提示する。 ・核兵器の映像を見て、核兵器の恐ろしさについて理解する。 ・なぜ核拡散が起こったのか、なぜ軍縮が進まないのか、考える。	・ビキニ環礁の水爆実験の映像を見せる。 ・核の拡散の状況を説明し、多くの問題を持ちながら、軍縮がなぜ進まないのか、問いかける。	レポート
展開	・「囚人のジレンマ」について、考える。 ・ジレンマ解消の手段を考える。 ・「信頼関係の構築」「情報公開」が必要であることを理解する。 ・「囚人のジレンマ」を用いて、「安全保障のジレンマ」の構造について考え、説明する。 ・「信頼関係構築」の取組と、その成果と問題点について考える。 ・「ホットライン」がなぜ核戦争を起こさせないようにするのかについて考える。	・「囚人のジレンマ」を説明し、考えさせる。 ・「合成の誤謬」について説明する。 ・ジレンマを解消する手段を考えさせる。 ・「信頼関係の構築」が必要であることを理解させる。また「信頼関係の構築」には「情報公開」が必要であるとを説明する。 ・「安全保障のジレンマ」がなぜ起きるのかを、「囚人のジレンマ」を用いて説明させる。 ・冷戦期において東西の「信頼関係構築」のために、どのような取組がなされたのかについて、前回の授業内容（戦後の国際政治史）で当てはまるものを挙げさせる。 ・キューバ危機の米ソの交渉について理解させ、なぜ「ホットライン」が開設されたのかを考えさせる。	レポート
まとめ	●学習のまとめと振り返りをする。 「信頼関係の構築と情報公開」についてレポート（400字以内）を書く。	「信頼関係の構築と情報公開」についてレポート（400字以内）を書かせる。	レポート